

2024 年度

教職課程 自己点検評価報告書

2025 年 11 月

新島学園短期大学

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
1	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	
(1)	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標	2
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
(2)	基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	2
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
2	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	
(1)	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成	4
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
(2)	基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	5
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
3	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	
(1)	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編制・実施	6
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
(2)	基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携	8
①	現状説明	
②	長所・特色	
③	取組上の課題	
III	総合評価	9
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	10
V	現況基礎データ一覧	10
	2024 年度教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等	

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名及び学科名：新島学園短期大学コミュニティ子ども学科

所在地：群馬県高崎市昭和町 53 番地

(2) 学生数及び教員数(2024 年 5 月 1 日現在)

学生数：新島学園短期大学コミュニティ子ども学科 1 年 38 名、2 年 47 名

教員数：コミュニティ子ども学科の教職課程の専任教員数 6 名

2 特色

新島学園短期大学は、学術を教授研究し、あわせて建学の精神であるキリスト教主義教育の特色を発揮し、真理と平和を愛し、社会に有用な人材を養成することを目的としている。

コミュニティ子ども学科は、建学の理念に基づき、地域社会に貢献し得る保育士及び幼稚園教諭を養成することを目的に教職課程を展開している。コミュニティ子ども学科は「子どもの文化・環境コース」、「福祉・心理コース」、「音楽・表現コース」の 3 つのコースを設け、学生の興味・関心に応じて専門知識を教授している。また、保育者としての資質の充実のため、学科の特色ある取り組みを実施している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

1 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標

①現状説明

「教職課程の設置の理念」及び「教員養成の目標」は、2022年度に作成した。「教職課程の設置の理念」は、社会的ニーズや建学の精神を踏まえて具体的・明確に設定し、「教員養成の目標」は、学則及び学科の教育の特色を踏まえて設定した。「教員養成の目標」は2023年度に一部を変更し、「教職課程の設置の理念」及び「教員養成の目標」は、本学のホームページに掲載し公開している。

コミュニティ子ども学科のディプロマ・ポリシーを設定し、計画的に教員養成を行っている。

②長所・特色

「教職課程の設置の理念」は、社会的ニーズや地域の教育現場の現状を踏まえて、地域の教育に貢献することを目指していることが特色である。「教員養成の目標」は、地域社会に貢献し得る教員の養成であることが特色である。

③取組上の課題

「教員養成の目標」は、学則及び学科の教育の特色を踏まえて設定され、2023年度に一部変更をしたものについて、2024年度以降の『学生便覧』に反映する必要があるが、まだなされていない。また、卒業時満足度調査や外部評価アンケート等からの意見や自己点検・評価の結果も踏まえ、定期的に見直しを行うことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

1-1-1 教職課程の設置の理念

1-1-2 教員養成の目標

1-1-3 コミュニティ子ども学科 ディプロマ・ポリシー

1-1-4 新島学園短期大学卒業時満足度調査

1-1-5 外部評価アンケート

(2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

①現状説明

教員の編制は、「大学として求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」を踏まえて行っている。教員の配置は教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しており、本学のホームページに掲載し公開している。教職課程に関わる専任教員の業績と授業科目に関する一部の業績や実務経験の状況は、本学のホームページに公開している。

教職課程を担う組織は、教務委員会、自己点検・評価委員会、教職課程自己点検部会、キャリアセンター、コミュニティ子ども学科である。適切な職員数を配置し、協力して実施するように組織を設けている。教職課程を担う組織図は、本学のホームページに掲載し公開し

ている。

授業の実施に必要な施設・設備は適切に整備している。施設・設備は、講義室、保育実習室、ピアノ練習室、造形室、調理室、体育館、コンピュータ室を設置している。各教室には適切な映像機器や備品を配備して使用している。施設・設備は、学生便覧及び本学のホームページ、『保育者をめざして一実習の手引き』に掲載し公開している。

ICT 教育環境は、講義室にパソコン、プロジェクターなどのマルチメディア機器を配置し、情報機器を活用した授業を実施している。

学生全員に短期大学の ID やメールアドレスを発行している。また、キャンパス内には無線 LAN やコピー機を配備している。

教職課程に関係する教職員の資質・能力を高めるよう定期的に FD・SD の研修を実施し、参加者を確保している。

自己点検・評価委員会では、各授業科目の改善のため「授業評価アンケート協力のお願い」、「授業評価アンケートの実施に関する注意事項」を配布し、学期末に授業評価アンケートを実施している。「授業評価アンケート集計結果」は、授業改善に活用している。また、各学期に授業公開週間を設定し、教員が他の科目の授業を参観することで、教育の質の向上に努めている。

学校教育法施行規則に定められたシラバスは、本学のホームページに掲載し、学内外にわかりやすく公開している。

学修成果の目標は、本学のホームページに掲載し公開している。また、本学のホームページに「教職課程に関する自己点検・評価の実施方針」を掲載し、自己点検・評価の方法を公開している。

②長所・特色

学長のもと、教務委員会、自己点検・評価委員会、教職課程自己点検部会、キャリアセンター、コミュニティ子ども学科が協力して教職課程を運営していることが特色である。

③取組上の課題

・組織的工夫

コミュニティ子ども学科において、教職課程に関する自己点検報告会を実施するなど、毎年の課題等について共有、確認するとともに、シラバスの教職課程のコアカリキュラムとの対応を点検する仕組みや体制がのぞまれる。

<根拠となる資料・データ等>

1-2-1 大学として求める教員像及び教員組織の編制に関する方針

1-2-2 教員数

1-2-3 各教員の専門分野・研究業績等

1-2-4 実務経験のある教員等による授業科目

1-2-5 教員の養成に係る組織

1-2-6 「学内配置図」、『学生便覧』

1-2-7 施設

- 1-2-8 「実習のサポート」、『保育者をめざして—実習の手引き—』
- 1-2-9 2024 年度 前期 FD・SD 活動報告
- 1-2-10 授業評価アンケート協力をお願い
- 1-2-11 授業評価アンケートの実施に関する注意事項
- 1-2-12 授業評価アンケート集計結果
- 1-2-13 「授業公開週間」実施のお知らせ
- 1-2-14 シラバス
- 1-2-15 教職課程に関する自己点検・評価の実施方針

2 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

①現状説明

アドミッション・ポリシーに、本学が求める人材像を分かりやすく示している。アドミッション・ポリシーは、『CAMPUS GUIDE 2025』、『新島学園短期大学学生募集要項』、本学のホームページに掲載し公開している。

入試の選抜方法は、適切な評価基準を設け、『新島学園短期大学学生募集要項』に掲載している。入学者の選抜は、アドミッション・ポリシーを踏まえて、適切に学生を受け入れている。

教職課程を履修する学生を確保するため、入学前のプレカレッジで教育実習の情報提供を行っている。

入学予定者に「合格者への課題」を課し、高校までの学びの振り返りを行い、コミュニティ子ども学科の学修の準備ができるようしている。

教職課程の履修に当たって履修ガイダンスを実施し、学生に対して適切に履修指導を実施している。教職課程の履修者は、教職課程登録願に記入して登録している。

履修カルテは、『保育者をめざして—実習の手引き—』に掲載し、学期ごとの目標の設定と振り返りを行い、Google Classroomでの提出となり、学修や向上のために活用している。

②長所・特色

コミュニティ子ども学科は、入学前のプレカレッジで、入学予定者に対してピアノの指導を行い、入学前から技能の定着を進めている。また、入学時にコーチングの専門家である外部講師を招聘し、参加・体験型の「学生生活充実のためのスタートアップセミナー」を開催している。授業4コマ分（春・秋各2コマ）のセミナーは、学生の自己肯定感やポジティブシンキングの育成を目的として、グループワークに取り組み、人と関わることの楽しさ・むずかしさを感じながら、新しい友達をつくり、学生生活に対する不安を軽減する役割を果たしている。また、2年間で学ぶことへのビジョンを描き、目標をセッティングすることができるよう配慮されている。

『学生便覧』に幼稚園教諭免許状の説明や対応する科目、実習スケジュールを掲載し、学生が教職課程について理解し、適切な履修ができるように工夫している。履修指導は、ゼミ

担当教員が個々の学生に応じて指導している。『保育者をめざして一実習の手引き一』に履修モデルを掲載し、見通しを持って教職課程の科目を履修できるように指導している。

③取組上の課題

・授業時間外の学修

学修状況調査によると、授業時間外の学修の時間がやや低い傾向にある。授業の事前事後における学修習慣の定着が課題である。

・免許状取得

卒業時の免許状取得状況から、卒業者数と免許状取得者数に差異がある。入学後早期より取得を希望しない者、また履修している過程で取得をやむを得ず辞退する者がいるため、教職への意識付けやサポートすることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 コミュニティ子ども学科 アドミッション・ポリシー

2-1-2 『CAMPUS GUIDE 2025』

2-1-3 『新島学園短期大学学生募集要項』

2-1-4 プレカレッジ 教育実習について

2-1-5 合格者への課題について

2-1-6 履修ガイダンス資料

2-1-7 教職課程登録願

2-1-8 「実習」、『学生便覧』

2-1-9 「履修モデル」、『保育者をめざして一実習の手引き一』

2-1-10 「履修カルテ」、『保育者をめざして一実習の手引き一』

2-1-11 外部評価アンケート

2-1-12 学修状況調査

2-1-13 教育職員免許法施行規則第二十二條の六に基づく情報

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

①現状説明

コミュニティ子ども学科の教職へのキャリア支援の内容は、『保育者をめざして一実習の手引き一』、『学生便覧』に掲載し公開している。

キャリアセンターの進路ガイダンスは、1年次秋学期から2年次春学期まで実施し、計画的なキャリア支援をしている。キャリアセンターでは、進路ガイダンスの他に個別相談や面接指導、履歴書添削等を実施し、個々の学生の状況に合わせた指導をしている。また、キャリアセンターは、学生に就職の情報をポータルサイト、掲示などで適切に提供している。求人票の他に、過去の就職活動を記録した冊子をファイルし、学生が進路を考える上で参考になるように配置している。

②長所・特色

キャリアセンターでは、学生に進路希望調査を実施している。進路希望調査をもとにゼミ

担当教員が個別面談をすることで学生が適正な進路を選択できるように支援している。また、学生に学外の団体が主催する就職関連の催しを積極的に紹介することで、教職に興味を持てるように支援している。

キャリアセンターでは、就職支援対策として公務員対策講座を実施し、公立幼稚園への就職を支援している。

進路ガイダンスでは、卒業生を招いた講話を実施し、就業の状況の説明や、職業観・勤労観の育成、また就職活動の経験を知る機会を設定している。

③取組上の課題

- ・進路ガイダンスの参加

進路ガイダンスは不定期で実施されるためか、学生の参加に課題があるが徐々に改善してきている。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-1 「実習～社会へ」、『保育者をめざして—実習の手引き—』

2-2-2 「卒業後の進路」、『学生便覧』

2-2-3 進路ガイダンス計画

2-2-4 進路希望調査

2-2-5 個別面談

2-2-6 公務員対策講座

2-2-7 進路ガイダンス出席名簿

3 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編制・実施

①現状説明

カリキュラム・ポリシーを踏まえ、教員の養成の目標を達成するようにカリキュラムを設定し、必要な授業科目を開設している。教職課程の体系性を考慮し、授業科目一覧、授業科目および教員配置表(ナンバリング含む)、教職課程の対応表を作成し、『学生便覧』などに掲載している。カリキュラムマップは、ホームページに掲載して公開している。教養科目と保育士養成課程の科目は、教職課程の科目との関連性を考慮して開設している。教養科目は、教職課程の基盤となる資質を獲得できるように開設している。

授業での ICT の活用は、教職課程コアカリキュラムを踏まえてシラバスに掲載し、授業で実施している。アクティブ・ラーニングの手法は、個々の科目で「グループで考えること」や「発表すること」、「課題を探究すること」に取り組んでいる。

履修科目登録の手続きについては『学生便覧』56 ページに掲載している。履修上の注意事項として、2023 年度からキャップ制を導入し、各学期に登録できる単位数を 30 単位として学生が授業の予習復習の時間を確保し適切な履修計画となるよう明示した。ただし、コミュニティ子ども学科の幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の修得に必要な授業科目については、履修できる単位数の上限対象とはしないことを追記している。学修時間は、毎年の学修状況

調査で、適切な時間が確保できているかを確認しているが、学生全体の傾向として時間数は不足している。

教職課程の個々の科目は、幼稚園教育要領、教職課程コアカリキュラムに対応するようにシラバスを作成している。シラバスは目標、内容、計画、評価基準、授業時間外の学修の必要な項目を具体的に記載し、本学のポータルサイトから自由にアクセス可能で学生がシラバスを活用できるように工夫している。

「保育・教職実践演習(幼稚園)」の科目は、科目の趣旨を踏まえて授業内容を計画し、「保育・教職実践演習(幼稚園)マニュアル」をもとに、複数の教員で協力して実施している。

履修カルテは、『保育者をめざして一実習の手引き一』に掲載し、1年次から半期ごとに記入し、教員による確認を行っており、「保育・教職実践演習(幼稚園)」に向けて適切に活用している。

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の科目は、7名のゼミの担当教員が担当するため、「基礎演習Ⅰ・Ⅱマニュアル」に授業計画や担当、課題、評価方法を記述して、担当教員による課題や評価に不平等が生じないようにしている。

教育実習は、「実習に関する内規」を踏まえ、学外の幼稚園と協力しながら実施している。教育実習について、概要等を『保育者をめざして一実習の手引き一』に掲載し、実習の事前・事後指導で活用しながら適切に実習を行っている。

教員に「学生による授業評価アンケート」の集計結果を配布し、各科目の授業内容の見直しを行っている。また、自己点検・評価委員会から教員に「授業公開週間」の実施のお知らせを配信し、教員による相互参観を行っている。

「授業運営及び単位認定の基本的考え方」を本学のホームページに掲載し、授業運営と単位認定の方針を公開している。各授業科目の成績評価基準はシラバスに記入し、本学のホームページに掲載している。「成績問い合わせ」は、『学生便覧』に掲載し、学生が「成績問い合わせ申請書」により申請できるように配慮している。

個人指導が中心となるピアノの授業においては、担当教員間の統一した授業運営と成績評価の客観性を担保するため、「音楽関連科目研修会」を実施している。

コミュニティ子ども学科の学修成果は、建学の精神を踏まえて作成され、その内容をホームページに掲載している。

②長所・特色

学科の特色ある取り組みで特別講演会や卒業研究・学科発表会の行事を実施している。また、子育て支援としてチャイルド広場を実施している。このような特色ある取り組みにより幼稚園教諭として必要な資質を養成している。

コミュニティ子ども学科の教育方針や授業運営について兼任講師と共有するため、「兼任講師との懇談会」を実施している。

③取組上の課題

・ICT活用

ICT活用は、教職課程のコアカリキュラムを基に各科目のシラバスにおけるICT活用の状況を確認していないことが課題である。

・教職課程の見直し

教職課程の見直しは、自己点検・評価の結果や学修成果、各種調査を踏まえて行えていないことが課題である。

・学修成果

間接評価を測る調査である卒業時満足度調査のアンケートの設問が、最新のディプロマ・ポリシーではなく、過去のディプロマ・ポリシーを踏まえた設問であったので、正しい測定ができなかったことが課題である。

科目レベルの学修成果は授業アンケートの設問Ⅳにおいて確認している。

<根拠となる資料・データ等>

- 3-1-1 カリキュラム・ポリシー
- 3-1-2 カリキュラムマップ
- 3-1-3 「授業科目一覧」、『学生便覧』
- 3-1-4 「授業科目および教員配置表」、『学生便覧』
- 3-1-5 「教職課程の対応表」、『保育者をめざして 実習の手引き』
- 3-1-6 シラバス
- 3-1-7 「履修上の注意事項」、『学生便覧』
- 3-1-8 学修状況調査
- 3-1-9 成績一覧
- 3-1-10 「学生による授業評価アンケート」集計結果について
- 3-1-11 「授業公開週間」実施のお知らせ
- 3-1-12 「履修カルテ」、『保育者をめざして—実習の手引き—』
- 3-1-13 「教育実習」、『保育者をめざして—実習の手引き—』
- 3-1-14 基礎演習Ⅰ・Ⅱマニュアル
- 3-1-15 実習に関する内規
- 3-1-16 音楽関連科目研修会
- 3-1-17 保育・教職実践演習(幼稚園)マニュアル
- 3-1-18 授業運営及び単位認定の基本的考え方
- 3-1-19 「成績問い合わせ書式」、『学生便覧』
- 3-1-20 成績問い合わせ申請書
- 3-1-21 コミュニティ子ども学科 学修成果
- 3-1-22 兼任講師との懇談会

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

①現状説明

コミュニティ子ども学科は、学外・学内のボランティア活動を通して、実践的指導力の養成を行っている。ボランティアの進め方やルールは、『保育者をめざして—実習の手引き—』に掲載し、教育実習指導で説明している。学外のボランティアの情報は、掲示と教員の説明

により、学生の参加を促している。

実習については、本学から実習先に実習に関する書類「教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱについて(依頼)」、「教育実習Ⅰ・Ⅱに関する書類」を郵送し、適切に連携しながら実施している。また、書類で実習先からの要望を確認し、実習の事前・事後指導に反映している。また、実習先との意見交換会を実施し、実習先との交流の中で情報交換を図っている。

教職課程を充実するために、各科目で外部の多様な人材を活用している。また、進路ガイダンスにおいてもゲストスピーカーとして多様な人材を活用している。

②長所・特色

教養科目の「地域と子ども」では、学外の保育施設のボランティアで、実践的指導力の養成を行っている。また、学内のチャイルド広場は、2023年度より「子育て支援」の授業において、一人2回の参加を保証している。学生は、グループによる協働の取り組みの中で、親子に向けて毎回20分間の保育を計画、実践、振り返りをし、次回のグループに繋げている。また、実習時には体験できない保護者へのサポートやコミュニケーションを通し、実践と理論の統合を図りながら、子育て支援の技能の養成を行っている。

教養科目の「地域と子ども」は、多くの学外の人材をゲストスピーカーとして活用している。特別講演会は、保育者としての専門性を高めることを目的に、年1回、保育・福祉・教育の講師を招いて開催している。

③取組上の課題

・コロナ禍前と比較するとボランティア依頼の数は減少している。また、依頼先への学生による応募も少ない現状が課題である。掲示以外にも口頭でのアナウンスを行い、より周知することによって学生の学びや経験する機会を提供することが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

3-2-1 「ボランティア」、『保育者をめざして—実習の手引き—』

3-2-2 「教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱについて(依頼)」

3-2-3 「教育実習Ⅰ・Ⅱに関する書類について」

3-2-4 「実習先との意見交換会」案内

3-2-5 「地域と子ども」 授業計画

3-2-6 特別講演会 次第

Ⅲ 総合評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」は、基準項目1-1「教職課程教育の目的・目標」と基準項目1-2「教職課程に関する組織的工夫」の現状説明や特色をもって3年間の積み上げがなされてきている。基準領域1の課題は、「教員養成の目標」について「学生便覧」への反映を即座に行いつつ、定期的な見直しを行うことと、コミュニティ子ども学科において教職課程の自己点検報告会を実施するなどして課題等について共有、確認するとともに、シラバスの教職課程のコアカリキュラムとの対応を点検する仕組みや体制がのぞまれる。

基準領域 2「学生の確保・育成・キャリア支援」は、基準項目 2-1「教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成」と基準項目 2-2「教職へのキャリア支援」の現状説明や特色により示すことができた。基準領域 2 の課題は、教職を担うべき人材確保と、進路ガイダンスへの学生の参加である。

基準領域 3「適切な教職課程カリキュラム」は、基準項目 3-1「教職課程カリキュラムの編制・実施」と基準項目 3-2「実践的指導力養成と地域との連携」の現状説明や特色により示すことができたが、課題は、教職課程の定期的かつ組織的な見直しとその共有である。コアカリキュラムを基に各科目のシラバスにおける ICT 活用の状況確認や、教職課程の見直しを自己点検・評価の結果や学修成果、各種調査を踏まえて行っていく必要がある。

IV 「教職課程 自己点検評価報告書」作成プロセス

- 2025 年 4 月 教職課程に関する組織の改編改称
自己点検・評価委員会の内部組織である教職課程自己点検委員会を教職課程点検部会に改称
- 2025 年 6 月 教職課程点検部会は、実施方針及び実施手順を提案し、検討する。
- 2025 年 7 月 教職課程点検部会は、教職課程の法令由来事項について点検する。
- 2025 年 7 月 教職課程点検部会は、教職課程の自己点検・評価の進め方を検討する。
- 2025 年 8 月 教職課程点検部会は、自己点検・評価を実施し、報告書を作成する。
- 2025 年 10 月 教職課程点検部会は「教職課程 自己点検評価報告書」を最終確認した後、自己点検・評価委員会へ報告する。
自己点検・評価委員会は「教職課程 自己点検評価報告書」をもとに自己点検・評価の適切性の確認を行う。
- 2025 年 11 月 自己点検・評価委員会は、「教職課程 自己点検評価報告書」の承認をして、新島学園短期大学のホームページにて公開する。

V 現況基礎データ一覧 (2024 年度)

設置者 学校法人 新島学園

大学・学部名称 新島学園短期大学

学科やコースの名称 コミュニティ子ども学科

1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等

① 卒業者数	45 名
② ①のうち、就職者数	42 名
③ ①のうち、教員免許状取得者数	39 名
④ ②のうち、幼稚園教諭免許状を使用した就職者数	21 名
⑤ ④のうち、正規採用者数	21 名
⑥ ④のうち、非正規採用者数	0 名

2 教員組織

	教授	准教授	専任講師
教員数	5名	1名	0名

2024年度教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等

基準領域	資料
1-1	<p>1 教職課程の設置の理念 https://www.niitan.jp/about/pdf/permit/kyoshoku22_6.pdf</p> <p>2 教員養成の目標 https://www.niitan.jp/about/pdf/permit/kyoshoku22_6.pdf</p> <p>3 コミュニティ子ども学科 ディプロマ・ポリシー https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>4 新島学園短期大学卒業時満足度調査 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7</p> <p>5 外部評価アンケート https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7</p>
1-2	<p>1 大学として求める教員像及び教員組織の編制に関する方針 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?teacher=page-3</p> <p>2 教員数 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?teacher=page-3</p> <p>3 各教員の専門分野・研究業績等 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?teacher=page-3</p> <p>4 実務経験のある教員等による授業科目 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7</p> <p>5 教員の養成に係る組織 https://www.niitan.jp/about/pdf/permit/kyoshoku22_6.pdf</p> <p>6 「学内配置図」、『学生便覧』</p> <p>7 施設 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?facility=page-6</p> <p>8 「実習のサポート」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>9 2024年度 前期SD・FD活動報告 https://www.niitan.jp/_file/2024_FDSD.pdf</p> <p>10 授業評価アンケート協力のお願ひ</p> <p>11 授業評価アンケートの実施に関する注意事項</p> <p>12 授業評価アンケート集計結果 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>13 「授業公開週間」実施のお知らせ</p>

	<p>14 シラバス https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>15 教職課程に関する自己点検・評価の実施方針 https://www.niitan.jp/about/pdf/self/kyosyokukatei_housin.pdf</p>
2-1	<p>1 コミュニティ子ども学科 アドミッション・ポリシー https://www.niitan.jp/about/disclosure/?admission=page-4</p> <p>2 『CAMPUS GUIDE 2025』</p> <p>3 『新島学園短期大学学生募集要項』</p> <p>4 プレカレッジ 教育実習について</p> <p>5 合格者への課題について</p> <p>6 履修ガイダンス資料</p> <p>7 教職課程登録願</p> <p>8 「実習」、『学生便覧』</p> <p>9 「履修モデル」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>10 「履修カルテ」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>11 外部評価アンケート</p> <p>12 学修状況調査</p> <p>13 教育職員免許法施行規則第二十二條の六に基づく情報 https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7</p>
2-2	<p>1 「実習～社会へ」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>2 「卒業後の進路」、『学生便覧』</p> <p>3 進路ガイダンス計画</p> <p>4 進路希望調査</p> <p>5 個別面談</p> <p>6 公務員対策講座</p> <p>7 進路ガイダンス出席名簿</p>
3-1	<p>1 カリキュラム・ポリシー https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>2 カリキュラムマップ https://www.niitan.jp/about/pdf/cc_checksheat.pdf</p> <p>3 「授業科目一覧」、『学生便覧』</p> <p>4 「授業科目および教員配置表」、『学生便覧』</p> <p>5 「教職課程の対応表」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>6 シラバス https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>7 「履修上の注意事項」、『学生便覧』</p> <p>8 学修状況調査</p> <p>9 成績一覧</p>

	<p>10 「学生による授業評価アンケート」集計結果について</p> <p>11 「授業公開週間」実施のお知らせ</p> <p>12 「履修カルテ」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>13 「教育実習」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>14 基礎演習Ⅰ・Ⅱマニュアル</p> <p>15 実習に関する内規</p> <p>16 音楽関連科目研修会</p> <p>17 保育・教職実践演習(幼稚園)マニュアル</p> <p>18 授業運営及び単位認定の基本的考え方</p> <p>https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>19 「成績問い合わせ書式」、『学生便覧』</p> <p>20 成績問い合わせ申請書</p> <p>21 コミュニティ子ども学科 学修成果</p> <p>https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p> <p>22 兼任講師との懇談会</p>
3-2	<p>1 「ボランティア」、『保育者をめざして—実習の手引き—』</p> <p>2 「教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱについて(依頼)」</p> <p>3 「教育実習Ⅰ・Ⅱに関する書類について」</p> <p>4 「実習先との意見交換会」案内</p> <p>5 「地域と子ども」 授業計画</p> <p>6 特別講演会 次第</p>